



**糸** 満市の埋め立て分譲地、潮崎タウン。その中でも海側の区画を購入し、住居兼店舗を構えた徳永良久さん(43歳)、和美さん(41歳)。ともに美容師で、もともと東京・中目黒で美容院を営んでいたが、十数年にわたって沖縄フリークという良久さんの積極的行動および説得によ

り、娘のあいちゃん(6歳)を含めた一家の沖縄移住へと至った。「最初はあまり海辺にこだわるつもりはなかったんですよ。でも、いくつか物件を見ても、どれもバツとしない。せっかく沖縄に住むのに沖縄らしさがないなあと思って、決めかねていたんです。そうこうするうちにこの土地に出会ったんですが、ここはもう見た瞬間に、決めた! っ

て思いました。結局、海辺が一番沖縄らしい場所だったんですよね」妥協しない土地探しの末に手に入れた場所では、やはり妥協しない家造り、店造りが行われた。設計を担当したのは本誌でもおなじみ、チームドリーム (<http://www.dream-archi.com/>) の福村俊治氏だ。福村氏の建築といえは、沖縄の気候風土や自然を生かすのが特徴的。海が見えるならその眺望を存分に生かし、風通しを優先し、中庭や半戶外空間を設け、そこには南国の植物を植え

る。そんな考え方は、夫妻が望む家造りに合致した。お互いに意見を交換し、細かいやりとりを重ね、この住居兼店舗が完成した。

ヤシの木が伸びる中庭を囲むようにコの字型に建てられた徳永邸は、1階をピロティにした3階建てだ。2階の海側を美容院とし、それ以外を住居とした。

「1階をピロティにしないで単純な2階建てにすれば、コストはかなり

「せっかくリゾートのような眺望だから生活感を出したくない」ということで、リビングには透明のテーブルとイスを選んだ



海辺の暮らし ● file 1



## 絶景を味わい尽くすための住まい

place ● 糸満市 people ● 徳永良久さん、和美さん

写真=島袋常貴 Photos: Tsunetaka Shimabukuro  
文=編集部 Text: Okinawa Style



1: 大胆なガラス張りが目を引く徳永邸。施工は善太郎組(☎098-857-1023 <http://www.zentaro.co.jp>) 2: 中庭から見上げた眺め。左手が海側で2階が美容院、3階がリビング、正面は廊下。中庭があることで建物全体の風通しもよくなっている 3: 寝室からリビングを眺めたところ。ガラスを通して海がよく見える。一家3人と長期滞在中の良久さんのお母さん、啓子さんと団らん中

1  
3 2



刻々と表情を変える  
ガラスの外の景色。  
夕焼け空がテーブル  
に反射する。ほんの  
わずかな美しい時間

低く抑えられました。でも、それではここに家と店を造る意義が半減してしまうと思っただんです。1階からではせつかくの海が見えにくいからです。美谷院のお客さんも、リビングの家族も、どちらも気持ちいいオーシャンビューを味わえるように、3階建てにしました。」

そんなわけで、2階の海側にある美谷院からは、もちろん海がよく見える。カット前のシャンプーが終わり顔を上げると、目も眩むほどに青い海、そんな演出も施されている。一方、2階の反対側はいずれ子ども部屋になる予定の部屋だが、実はこの部屋からも海がよく見える。美谷院の両側がガラス張りになっているためだ。その構造は3階でも同じ。海側にあるリビングは、まさにオーシャンビューを堪能するための部屋といった感じだが、反対側にある寝室からも、ガラス張りのリビングの向こうに心地いいブルーを感じる事ができる。良久さんが好きなビュースポットに「ベッドの上」を挙げられるほど、その眺めは素晴らしい。つまり、この家は、あらゆる場所から海を眺められるよう設計されているのだ。

「この家に住んで、海の様子が毎日違うことを知りました」  
そんな和美さんの言葉にも深く納得するばかりのオーシャンビューハウスなのだ。



## 生活感のない空間こそ、この場所にふさわしい

file 1 : yoshihisa , kazumi tokunaga



1: バスルームからも海を一望。水平線に向かって、水色から少しずつブルーの濃度を増していくグラデーションが美しい 2: 3階のテラスからの眺め。目の前の海岸線は公園として整備されている 3: 海を眺めながらヘアメイク&ヘッドスパを受けられる「Lani Blue」。海の雰囲気を感じられるよう、特注のアクリルフレームの鏡を備えるこだわりぶり。沖縄県糸満市潮崎町3-16-17 ☎098-992-8158 <http://homepage3.nifty.com/laniblue/> 4: 徳永さんご夫妻

